

平成29年3月31日

平成29年度 事業計画書

公益財団法人 落柿舎保存会
理事長 中井 武文

「俳人向井去来の別業である落柿舎を永久に保存し、俳句並びに俳諧の興隆発展に寄与すること」(定款第3条)を目的とし、公益財団法人落柿舎保存会の平成29年度事業計画を、下記のとおりご報告いたします。

記

1. 落柿舎の公開と向井去来の顕彰及び遺蹟の護持

1) 公開事業

去来先生の閑居の跡である「落柿舎」を、我が国の大切な文学遺跡として広く一般に公開し、その維持保存のために拝観者から拝観料を受納する。

なお、平成29年度の拝観料については、アジア諸国からの観光客は増加しているものの、嵯峨野地域の観光事情の変化等により大幅増は見込めないため、前年度実績等を勘案し、合計4万人として予算計上する。

また、拝観者増を図るため、引き続き観光関係の諸団体を通じた広報活動を行い、さらには、嵯峨野の中心に位置する落柿舎の知名度を高めるために、境内外の案内板の新設・補修やホームページの改訂等、細やかな施策を継続実施していく。

2) 顕彰事業

芭蕉翁や去来先生の顕彰を目して次の事業を行い、落柿舎の護持承継を推進する。

イ) 去来祭(314年祭) 日時:平成29年10月9日(月/祝) 11時～

ロ) 去来先生墓や祠の維持管理を行う。

ハ) その他、例年の通り、落合の芭蕉翁句碑参拝や義仲寺における芭蕉翁伝統行事「奉扇会」「時雨会」への支援をはじめ、芭蕉翁や去来先生の顕彰につながる行事や企画等への参画を行う。

3) 遺蹟保全事業

境内建物や垣の修復を行い、また、俳句俳諧の季題となる草木・花の植栽等、庭園管理を継続的に行う。

2. 俳句並びに俳諧の普及啓発の事業を行う

1) 俳句普及事業

境内に設置した投句箱により拝観者が詠まれた俳句を受け付け、秀句を選び季刊誌

「落柿舎」に発表する等、俳句の普及活動を継続する。また、年に一度、「落柿舎投句大賞」を発表し授賞式を行う。

2) 季刊誌発刊事業

季刊誌「落柿舎」を継続的に発行（4月／7月／10月／1月発行予定）し、俳句俳諧研究の一助とすべく研究者や俳人による論文・エッセイを掲載する。また、購読希望者や拝観者に広く配布する。

3) 施設提供事業

落柿舎本庵を模した「次庵」を一般に開放し、句会席をはじめ文芸文化に関わる集会等に利用してもらおう。

3. 松尾芭蕉翁、向井去来先生を始め、著名俳人の関係資料の蒐集と公開を行う

1) 資料蒐集事業

芭蕉翁や去来先生等に関する文献資料の蒐集に務め、蔵書整備を継続し、一般閲覧に供する。

2) 書籍制作・頒布事業

落柿舎や芭蕉翁、去来先生をはじめ俳句俳諧に関する書籍・冊子等の出版・頒布事業の充実を図る。

4. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業を行う

1) 「次庵」利用促進による公益収入の増加や、収益事業に係る事業の新たな調査及び頒布品の見直しや新規開発に努める。

2) 永い将来を見越した去来祭の安定的開催を目的に、祠のある隣接土地の取得に関する交渉を継続実施し、年度内取得を目指す。

3) 防火・防犯等に関わる設備を点検整備し、また、鳥獣被害に対する施策も講じる。

以上

